

第3学年 算数科学習指導案

日時：令和元年11月21日（木）5校時

場所：

授業者：

1 単元名 「11 小数」(全14時間)

2 単元について

本単元の構成と学習指導要領との関連は、次のようになっている。

学習指導要領より 3年A(5)

(5) 小数の意味や表し方について理解できるようにする。

ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること。

イ 1/10の位までの小数までの小数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

第3学年で、新しい数の表し方として、「はしたの大きさ」を小数で表すことを学ぶ。(郡上市算数スタンダード指導案集より)

(1) 「0.1Lは1Lの1/10だから1dL」「0.1cmは1cmの1/10だから10mm」等とイメージする力を付ける

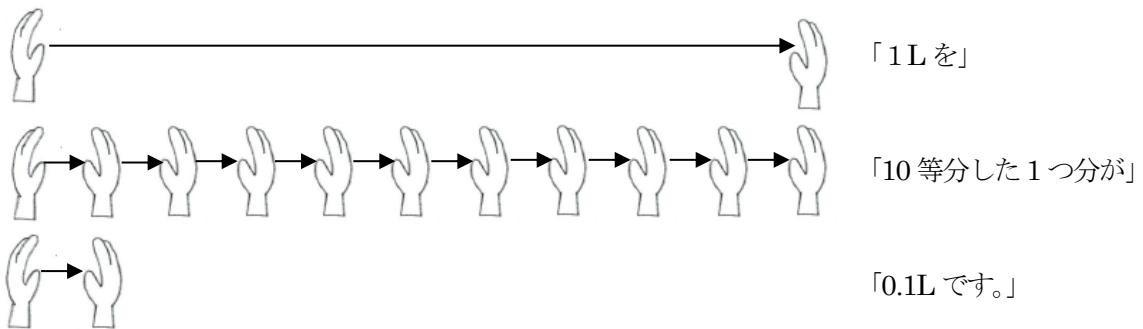
以後の学年において、「10cmは0.1mだから…」などと自在に使わせたいと考えるが、「10cm=0.1m」に首を傾げ、そのことにより思考が進めていけない子が少なくない。



授業を進める中で、この問題を示せば、「0.6L」と答えられる子が多い。すでに目盛りが与えられているものを無意識に6目盛り分だから0.6Lと答えているにすぎない。答えは0.6Lとしか答えられないように問題ができていのである。

上記の実態や小数の導入であることもふまえて、「手で表す」「小数ものさしで調べる」などの体感的、実感的な操作活動を大切にする。

・手で表す



・小数ものさし(分数ものさしと同様 12cm×2.5cm で作成)

0.1											
1/10											

(2) 「0.1いくつ分」で考えること

これまで、「10や100のいくつ分」「単位分数のいくつ分」で、図を読んだり、表したり、大小比較したり、計算したりしてきている。この単元は「0.1いくつ分」で考える力を付ける。

本時の指導にあたっては、小数チップ、小数ものさしを使った線分図を用いて、考えられるようにする。

3 児童の実態

本校3年生は、男児13人、女児11人の24人学級である。学力差が大きく、一斉の授業では理解が難しい児童がいるため、今年度の算数の授業では、「少人数」で行っている。昨年度までの少人数指導は、5、6年で行われたが、今回は初めて3、6年の指導となった。三城小学校では、ずっと担任がぐんぐんコース、少人数担当がじっくりコースを担当している。児童の人数の分け方は、ぐんぐんコースが3分の2、じっくりコースが3分の1にしている。それに習って、今年度の3年生は、16人がぐんぐんコース（3年教室）で担任の古川が担当、8人がじっくりコース（少人数教室）で少人数加配の小島が担当している。コースは、單元ごとに入れ替わる。單元前に行うレディネステストの結果と児童の希望を考慮しながら、担任がコース分けをしている。

ぐんぐんコースでは、算数が大好きで、問題を速く正しく解けることに喜びを感じている姿も見られる反面、「間違えたら嫌だから考えを言わないでおこう」と全体で交流することに消極的な姿もみられる。しかし、ペア交流では、意欲的に仲間に自分の意見を伝えようとする姿もみられる。ペア交流で自分の意見を伝えて自信をもたせ、3年生の終わりには全体交流で意欲的に取り組めることを目指したい。じっくりコースでは、理解ができるようにていねいに指導を続けている。

じっくりコースの中でも活動の速さや習熟度に個人差がみられるため、机間指導を効果的に行いながら、どの児童も考えをもって、それを表出できるようにしたい。

「分数」の單元では、分数チップ、分数ものさしを使って線分図をかいて説明をして、答えを求めてきた。まとめのテストの結果は、満点は7人、平均点は89点で、全体的によく理解できていた。

レディネステストでは、分数の学習後、別の單元に入り、記憶も薄れたのか既習の $1\text{ d L} = 1/10\text{ L}$ 、 $1\text{ mm} = 1/10\text{ cm}$ が正確にできたのは、児童の約半数だった。單元前に朝活動を活用して、復習させたい。

4 研究テーマとの関わり

令和元年度 郡上市教育研究会 算数部会

研究テーマ「数学的な思考力・表現力を高める指導のあり方

～目指す姿とそれに迫る数学的活動の明確化（重点）～

次のような指導を行えば、数学的な思考力・表現力をもとに考える児童を育てることができる。

(1) 前後の学年や領域等の系統性を踏まえ、単元や単位時間における数学的な思考力・表現力を明確にし、意図的、計画的な手立てを明らかにした数学的活動を行う。

本時は、問題把握後に、「どんなアイテムを使えば、できそうですか。」と問いかけて、どの子も方法の見通しをもって、課題解決にむかえるようにする。また、単元を始める前に、レディネステストと既習のまとめを行うことで、考えの見通しをもてるようにする。

(2) 数学的な思考力・表現力を働かせて、筋道を立てて考えたり、総合的・発展的に考えたりする力が育っているかを、どの場面でどのように見届けるのかを焦点化し、指導改善を図る。

〈問題 $0.5 + 0.4$ を設定し、定着状況を見届ける〉

問題 $0.5 + 0.3$ の計算の仕方を全体交流した後、深めたり、確かにしたりするために $0.5 + 0.4$ を設定し、そのあとにペア交流を位置付ける。(全員が必ず考えを表出できるようにする。) 問題 $0.5 + 0.4$ は、問題 $0.5 + 0.3$ で確かにした考え方を試すものとして位置付けるため、全体交流は行わない。

- ・「0.1のいくつつ分」で考えたこと
 - ・「いくつつ分といくつつ分ですといくつつ分」という表現
- という2点を確認する。